

平成24年全国・県学力学習調査の結果分析及び対策について

小城市立芦刈小学校

平成24年4月17日に『全国学力・学習状況調査』が行われました。この全国学力・学習状況調査は、全国の小学6年生と中学3年生に実施されたものです。実施教科は「国語」「算数（数学）」の2教科で、主として「知識」を問うA問題と、主として「活用」を問うB問題による調査が行われました。また同時に、児童の生活習慣や学習環境に関するアンケート調査も行われました。

また、4月16日に『佐賀県学習状況調査』が行われました。この佐賀県学習状況調査では、『社会』『理科』の2教科が行われました。

本校では、今回の調査結果を基に、全職員で成果と課題を分析し、指導方法の工夫・改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげたいと考えています。

ここでは、芦刈小の子どもたちの状況についての概要を【学力】【生活】という2つの視点で報告いたします。

※ここでいう学力とは、『全国・県学力学習状況調査』で測ることのできた学力の一部であり、子どもたちのもつ学力のすべてを示すものではありません。

【学力の面について】

【国語】

小学校国語Aでも国語Bでも、指導要領に掲げる「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の4つの領域から問題が出されました。

平均正答率は、国語A（主として知識）も国語B（主として活用）も県の平均正答率をやや上回っていました。

国語Aと国語Bを比較すると、国語Aより国語Bの正答率の方が高くなっています。これは、知識として得たものを活用したり、応用したりする能力がついてきたことがいえると思います。

《今後の学習指導の改善に向けた取り組み》

- よみときタイムを中心に、事実と感想・意見などとの関係を押さえ、自分の考えを表現する学習に取り組み、活用力や応用力が身に付くようにしていきます。また、字数制限をして文章を書く練習も行っていきます。
- 漢字の読み書きについては、家庭学習での取り組みや水曜日の昼の活動「漢字タイム」での漢字の学習や、国語辞典を個人で持たせ必要に応じて調べる活動の成果が現れ始めているので、今後も引き続き行っていきます。
- 長い文章を読むことに苦手意識を持っている児童がいるので、家庭での読書習慣（特に物語や伝記など）を身につけていくことや図書室を利用することを推進していきたいと思います。

【算数】

小学校算数においては、指導要領にあげる「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4つの領域から問題が出されました。

平均正答率は、算数A（主として知識）は全国の平均正答率を大きく上回っていました。算数B（主

として活用)は全国の平均正答率をやや上回っていました。学んだことがきちんと身につく、それを活用したり応用したりする力がついてきたようです。

テストに関する意識調査から、芦刈小学校の児童は、新しい問題には意欲的に取り組もうとし、分からない時も多様な考え方で根気強くやり遂げようとしていることが分かります。また、学習したことを普段の生活の中で活用できないかと考え、算数的活動に対して楽しみながら取り組んでいることが分かります。

《今後の学習指導の改善に向けた取り組み》

- 今後も、全学年で取り組んでいる図・式・キーワードを使って自分の考えを書くという活動を継続し、なぜそう考えたのか根拠をはっきりさせながら算数のよさを味わわせる授業を展開していきます。
- 具体物を使った算数的活動を取り入れた授業づくりを工夫していきます。
- 多種多様な問題に取り組ませることで、応用力をつけたいと思います。

【社会】

平均正答率は、県の平均正答率を大きく上回っていました。学んだことはきちんと身につけているようですが、資料から読み取ったことを文章で表すことや森林や水産業の学習に力を入れるといいと思います。

《今後の学習指導の改善に向けた取り組み》

- 資料から分かることを文章で表現させたり自分の言葉で説明させたりする活動を取り入れていくことで、さらに理解を深めさせていきます。
- 単元ごとの習熟やノートチェックを引き続き実施し、見学や調査活動、新聞にまとめるなどの体験活動を取り入れていきます。

【理科】

平均正答率は、県の平均正答率をやや上回っていました。学んだことはほぼ身につけているようで、実験の結果から結論を導き出す力がついてきたものと思われます。乾電池の直列・並列のつなぎ方の理解が不十分だったので、何を調べているのか図や写真で確認しながら学習を進めていくといいと思います。

《今後の学習指導の改善に向けた取り組み》

- 実験や観察をする時、手順を正確に理解させたり結論を考えさせたりすることを重視します。また、資料のみで学習する時は、理学的用語の意味を十分理解するように学習させていきます。
- 実験や観察の結果から分かったことを自分の言葉でまとめる書く活動を取り入れて、友達に説明する力や文章に表す力をつけさせたいと思います。

【生活の面について】

今回実施された全国学力・学習状況調査の中で、生活習慣や学習環境に関する86問の質問への回答から見てきた芦刈小学校の児童の特徴です。

① 「家庭生活」

朝食を毎日食べている児童の割合は、県と比べるとほぼ同じになっています。

睡眠に関しては、1日の睡眠時間が「9時間」や「8時間」程度の児童の割合が県を大きく下回り、「8時間より少ない」「7時間より少ない」と答えた児童の割合は上回っています。就寝時刻については、「午後9時より前」と答えた児童が、県とほぼ同じで、「午後11時以降」と答えた児童の割合が大きく上回っています。これらのことから、就寝時刻が遅くなり、睡眠時間が不足している傾向にあることが分かります。

普段のテレビやビデオ・DVDの視聴に関しては、「1時間より少ない」「全く見ない聞かない」の割合は、県を大きく上回っています。テレビゲームやインターネットの利用に関しては、「3時間以上」と答えた児童の割合は県を大きく下回り、「1時間より少ない」の割合が県をやや上回っています。テレビやゲームの視聴の時間が県より少ないことが分かります。

② 「地域生活」

地域行事への参加は7割を超え、県とほぼ同じです。

地域の人へ挨拶をしている人は8割を超え、県より大きく上回っています。又、「あいさつをしない」と答えた児童はいませんでした。以上のことから地域とのつながりが深いことがわかります。

③ 「自分について」

「人の気持ちがわかる人間になりたい」「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはいけない」という児童の割合は、県を上回り、人との関わりの大切さを実感しているようです。

また「友だちとの約束を守っている」「学校のきまりを守っている」と答えた児童は、県を上回っています。周りの人たちとのよりよい関係づくりにつながっているようです。

④ 「家庭学習」

普段も土曜日や日曜日の学校が休みの日も、1日あたりの家庭学習時間については、「1時間以上」学習している割合は、県と比べると大きく上回っています。これは、本校で取り組んでいる『学年×10分+10分』の取り組みが定着してきたためだと考えられます。

また、家で計画を立てて勉強をしている児童の割合は、県を大きく上回っています。授業の復習に取り組んでいる児童の割合も、県を大きく上回ります。この結果から、計画的に家庭学習に取り組む習慣は身につけ、学習の内容を自分で工夫していることがわかります。

⑤ 「コミュニケーション」

学校で友達に会うのは楽しいとかという項目については、「そう思う」と答えた児童は7割を超え、県とほぼ同じです。家の人に学校での出来事について話をする児童も8割以上で、県をやや上回っています。又、家の手伝いをよくしていると答えた児童が4割以上で、県をやや上回っています。

友達といることが楽しいと感じており、また、家庭の中での自分の役割を持ちながら家族との関わりを持っていることから、コミュニケーションがうまくとれている様子が分かります。

《今後の生活の改善に向けた取り組み》

- 幼保小中連携で作成した『家庭教育指針』の啓発を図るため、今後も「家庭教育強化週間」を定期的実施し、重点的に家庭教育で取り組む8項目（あいさつ・食事・早寝早起き・テレビの時間・家庭学習・手伝い・学校に行く準備・排便）について、指導を継続していきたいと思います。
- 自己実現については、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童が多いので、子ども達が夢や願いを持てるだけでなく、それを実現できると思えるように、具体的に学校や家庭や地域が協力して支援していく必要があると思います。